

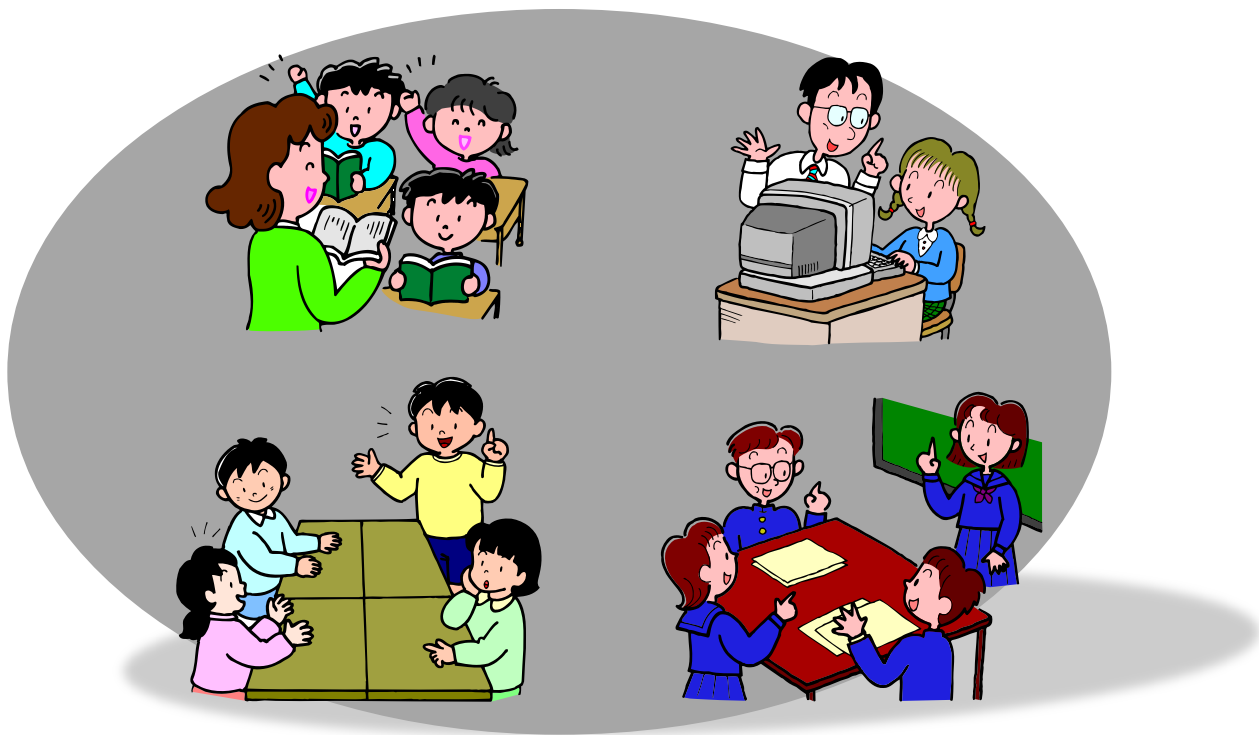
# 授業づくりと評価の手引き 基礎編 小・中学校版

～よりよい授業づくりをめざして～

児童生徒の確かな学力の定着・向上を図るためには、毎日の授業を振り返りながら、教員の授業力を高めることが重要です。

この手引きは、日々の授業実践の中で心がけておきたいことを取り上げ、解説したものです。

基本的な内容ですが、今一度確認することで、授業改善に結び付けてください。



平成25年7月  
山口県教育委員会

## 目次

### 授業づくりの基礎・基本について

1	教員に求められる授業力	2
2	めざしたい授業	2
3	児童生徒の主体的な活動を引き出すために	3
4	学習内容の定着を図るために	3
5	知識・技能を活用する力を育むために	3

### 学習指導の在り方などについて

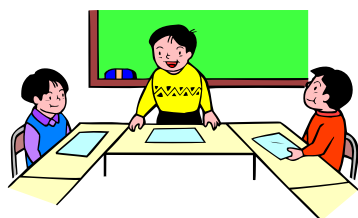
6	児童生徒への効果的な説明・指示・発問	4
7	板書で気を付けること	5
8	ノート指導で気を付けること	5
9	教材の精選や教材開発のポイント	6
10	授業プリント(ワークシート)の作成のポイント	6
11	学習形態をどう工夫するか	7
12	ICTや教具の効果的な活用方法	8

### 授業評価と授業改善について

13	授業改善の効果的な方法	9
14	授業評価の効果的な方法	10

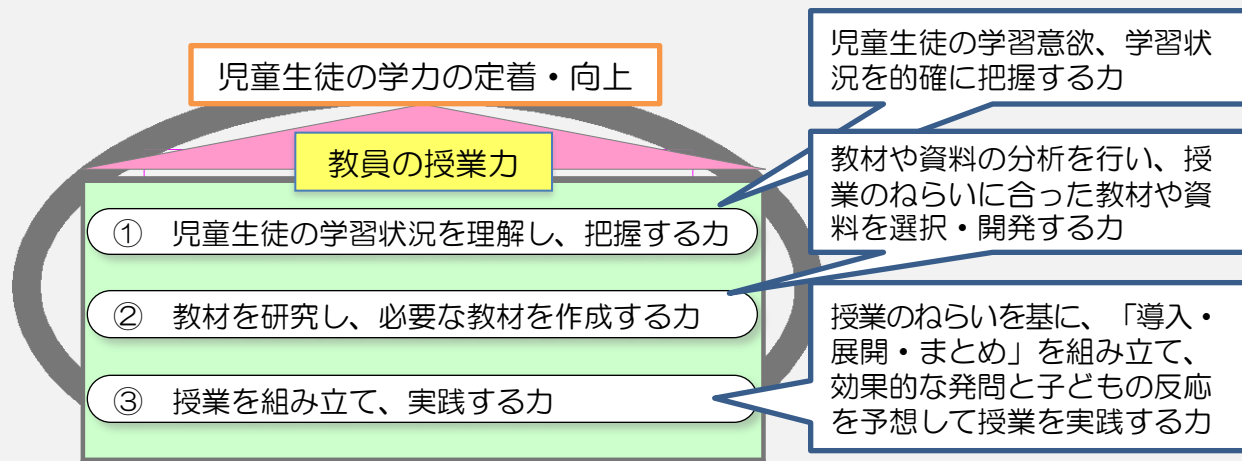
### 学習評価について

15	新しい学習指導要領における評価の観点	11
16	学習評価の基本的な考え方	12



# 1 教員に求められる授業力

児童生徒の確かな学力の定着・向上を図るためには、次の①～③の3要素から成る「教員の授業力」を高める必要があります。



## 【土台となるもの】

児童生徒への愛情、教育に対する使命感や責任感、児童生徒の学力を伸ばそうとする意欲や情熱、授業を分析・考察する力、豊かな人間性など

# 2 めざしたい授業

あなたがめざしたい授業をイメージして、振り返ってみましょう。

## ① 目標がはっきりした授業

- 「こんな子どもを育てたい」という、強い願いをもっている。
- 中・長期目標（年間、学期ごと）及び短期目標（月ごと、週ごと）を意識して授業に臨んでいる。
- 毎時間、明確な目標を設定し、その目標のもとに授業を組み立てている。
- その時間の目標を児童生徒がはっきりと理解している。

## ② めりはりのある、生き生きとした授業

- 授業の開始と終了の時間がきちんと守られている。
- 教員の表情が豊かである。
- 教員が言葉遣いを大切にしている。
- 教員の説明がていねいで、わかりやすい。
- 教員の発問や指示が具体的で、わかりやすい。
- 教員が児童生徒の意見を的確にとらえ、全体に生かしている。
- 学習に必要な準備が整っており、児童生徒が学習しやすい環境になっている。
- 活動の切り替えがきびきびしている。
- 個別学習、ペア学習、グループ学習、一斉学習などの学習形態を必要に応じて工夫して、取り入れている。
- 児童生徒が、自分の考えを明確に話している。

## ③ 評価に工夫がみられる授業

- その時間の目標に応じた評価がなされている。
- 様々な評価方法を取り入れ、多面的に児童生徒を評価しようとしている。

### 3 児童生徒の主体的な活動を引き出すために

#### 学ぶことの意義の理解

- 1 児童生徒が学ぶことの意義を理解しているか。  
様々な視点から何のために学ぶのかを伝えているか。

#### 授業の目標の理解

- 2 授業の目標を児童生徒に明確に伝えているか。  
めざす目標を明確にし、児童生徒が学習活動の見通しをもって授業に臨んでいるか。

児童生徒の学習  
意欲の喚起

### 4 学習内容の定着を図るために

#### 学習内容を振り返る機会の設定

- 1 授業や単元のまとめの際に、その授業の学習過程・学習内容を振り返る時間を設ける。

#### 確実に習得する場の設定

- 2 「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能については、繰り返し学習を重視して、根気強く徹底して指導する。  
学んだ知識は、「やまぐち学習支援プログラム」基本問題等を用いて、定着を図る。

### 5 知識・技能を活用する力を育むために

知識・技能を習得し活用する学習活動の基盤は、言語に関する能力です。言語環境を整え、言語活動を充実させましょう。また、知識・技能は、実際に言語活動により伝えあうことで、さらに定着します。

#### 言語活動を計画的に位置付けた授業の構成

- 1 観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達の段階に応じて計画的に位置付けるとともに、「やまぐち学習支援プログラム」の教材・問題等を用いて、思考力・判断力・表現力などを育成する。

#### 互いに伝え合い、学び合う場や状況の設定

- 2 各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動を取り入れるとともに、考えたり判断したりしたことを互いに伝え合い、学び合う場や状況を設定する。

#### ※各教科等において行う言語活動例

- ① 体験から感じ取ったことを表現する（言葉や歌、絵、身体表現など）
- ② 事実を正確に理解し伝達する（結果の記述・報告など）
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする（自分の生活の管理など）
- ④ 情報を分析・評価し、論述する（比較、分類、関連付け、条件の中での表現など）
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する（整理、考察、まとめ、表現など）
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる（問答、ディベートなど）

## 6 児童生徒への効果的な説明・指示・発問

説明・指示・発問は、授業に欠かせないものです。この3つを、学習内容や児童生徒の状況に応じてバランスよく取り入れることで、わかりやすい授業をつくることができます。

### 効果的な説明の仕方について

「説明」なしでは授業が成立しない。授業では、教材の内容をわかりやすく説明することが必要であり、「説明」が授業の中核を成すこともある。

#### ポイント

- ◆ 教材研究をしっかりと行い、どんな説明が児童生徒に最も効果的に伝わるか事前に考えておく。
- ◆ まず要点を説明する。図や絵、実物を見せて具体的・多面的に説明する。

### 効果的な指示の出し方について

「指示」は授業の節目で適切に行うことが大切である。児童生徒の活動内容を明確に示すことで、授業がスムーズに流れ、わかりやすくなる。

#### ポイント

- ◆ 児童生徒の意識を教員に向けてから指示を出すようにする。
- ◆ その場で考えて指示するのではなく、前もって指示内容を準備する。
- ◆ 指示は「一時」に「一事」とする。簡潔な内容となるように努める。

### 効果的な発問の仕方について

#### ★質問と発問のちがいを

質問：「～を知っていますか？」など、知っているかどうかを問う。  
発問：「～なのはなぜですか？」など、考える機会を与える。

「発問」は児童生徒の学習意欲を引き出すとともに、学習を深め、思考力を育てるために、授業には不可欠である。

#### ポイント

- ◆ 興味・関心を高める発問、授業のねらいに関する発問、図や絵を使った発問、対立・葛藤を生み出す発問、思考の過程を振り返る発問などを考える。

授業のそれぞれの段階で、説明・指示・発問を効果的に組み合わせることが重要です。その際、下の事柄に留意しましょう。

#### 導入

児童生徒が「おもしろそうだ」「やってみよう」と思うような興味深い内容で、授業のねらいに意識が向いたり、見通しをもったりする説明・発問に努める。

#### 展開

児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して、「わかった」「できた」と思えるような指示・発問に努める。

#### まとめ

児童生徒が学習過程を振り返り、学習内容を整理できるような説明・指示・発問に努める。

説明・指示・発問ともに、児童生徒に聞き取りやすく、簡潔明瞭なものとなるように努めましょう。

## 7 板書で気を付けること

板書は、「授業の顔」であり、授業そのものであると言われます。以下のポイントを参考に自分の板書を再度振り返ってみましょう。

### 板書のポイント

児童生徒にわかりやすい板書か。

- ★ 文字の大きさ・丁寧さに注意しているか。
- ★ 児童生徒にわかりやすい言葉や表現を使っているか。
- ★ 学習内容がわかるように、チョークの色の使い分けや囲みなどの工夫をしているか。

一方的な板書でなく、双方向的な板書となっているか。

- ★ 教員の説明だけでなく、児童生徒の意見なども板書しているか。
- ★ 児童生徒の思考の流れや、考え方の違いがわかるように、板書しているか。

板書を構造化しているか。

- ★ 日付、教材名、学習のめあてなどを書いているか。
- ★ 矢印などの記号、文字囲み、チョークの色などは、規則性をもっているか。
- ★ 学習展開に沿って論理的にまとめられているか。

授業1時間で、黒板一面分が基本

板書しながら説明することは避ける。また、児童生徒が見やすいように立ち位置にも気を付ける。

板書は、教師の力量を表します。

## 8 ノート指導で気を付けること

ノートづくりのためのノート指導ではなく、知識や技能の習得及び思考力・判断力・表現力等の育成につながるノート指導をしましょう。

### ノートをとることの意義

- ◆ 授業における学習内容を正確に記録すること
- ◆ 学習のポイントを明確にすること
- ◆ 自分の考えをまとめること
- ◆ 板書にはない、教員の補足説明や他の児童生徒の意見などを記録すること
- ◆ 学校での学習を振り返り、家庭学習に生かすこと

板書と連動させ、教科の特性を生かしたノートを作成するよう指導しましょう。

### ノート指導のポイント

- ◆ 項目分け、色分け、レイアウト、下線、矢印、吹き出しなどを工夫して取り入れる。
- ◆ メモ欄をノートの右や下に作成させることで、必要事項を書き留めていく。
- ◆ 定期的にノートの評価を行う。評価の観点を明確にし、よい面を積極的に価値付けるように努める。
- ◆ 児童生徒の優れたノートを紹介し、指標とする。



## 9 教材の精選や教材開発のポイント

授業は、児童生徒・教材・指導者の三位一体で成り立ちます。効果的に授業を進める上では、教材の精選や教材開発が大きな鍵を握るといっても過言ではありません。

教員の都合で「教えやすい教材」を使用するのではなく、

- ① 「何を教えるのかという学習内容」
- ② 「なぜ教えるのかという学習のねらい」
- ③ 「どのようにして教えるのかという手順」

をしっかりと考えることが重要である。



精選

授業においては、学習内容に軽重を付け、教材の配列を工夫したり、いくつかの内容を統合し、まとめて指導したりするなどの工夫が必要である。

開発

児童生徒の状況や、興味・関心、問題意識などの実態を把握した上で素材を集め、学習のねらいを十分に達成できるように教材化することが必要である。

## 10 授業プリント(ワークシート)の作成のポイント

授業プリント(ワークシート)の作成において、次の3つのポイントに留意しましょう。

教科書等の主教材に対応した内容となっているか。

1 主となる教材は教科書等である。授業プリントはあくまで補助的なものであるという認識のもとで作成しているか。

授業のねらい、児童生徒の実態や学習内容に対応しているか。

2 授業のねらい、児童生徒の実態、学習内容などに即したものとなっているか。内容を詰め込みすぎたり、手薄なものとなったりしていないか。

児童生徒の学習が円滑に行われるような工夫が取り入れられているか。

3 単に空所を埋めるだけでなく、自分の考えや気付き、どのような過程で思考・判断したかを記入できるようになっているか。

授業プリント(ワークシート)の構成について

- 教科・科目の特性を生かして、ドリルなど、練習を十分に行える内容となっているか。
- 児童生徒が内容を理解する助けとなるよう、図、フローチャートなどを用いているか。
- 児童生徒自身が自分の考えや気付きを書き込むことができるようになっているか。
- 授業の振り返りや、次時の学習のための自己評価欄や感想欄などを設けているか。
- 発展的な資料を載せて、深く考える機会を与えているか。
- 「やまぐち学習支援プログラム」の教材や問題を効果的に取り入れているか。

# 11 学習形態をどう工夫するか

学習形態には、教員の発問・指示等により、同じ内容をクラス全体で学習する「一斉学習」、グループごとに学習する「グループ学習」、パートナーと協力して学習する「ペア学習」、児童生徒が一人で考えたり調べたりする「個別学習」などがあります。

学習形態をどう工夫するかは、教科・科目、授業の場面、学習内容に応じて考える必要がある。

## それぞれの学習形態のメリットと取り入れる際のポイント

### 1 一斉学習



教員の発問に対してクラス全員で考えたり、話し合ったりするので、多くの意見を知ることができる。教員もクラス全体の反応を確かめながら授業を進めていくことができる。

教員は、導入の発問をみんなが答えやすいものにしたり、ICT等を取り入れて興味・関心を引き起こすよう努めたりするなどの工夫を取り入れる。説明・指示などの時間が長くなりすぎないように気を付け、児童生徒が考え、判断し、表現し合うことができる場を確保する。

### 2 グループ学習



近くの席の児童生徒とグループをつくったり、児童生徒の興味・関心や習熟度に応じてグループをつくったりすることができる。少人数なので、話しやすい雰囲気生まれる。

教員は、課題を焦点化・共有化させるとともに、グループ内での役割分担についての確かな指示をする。グループ学習の進め方についても、発達段階に応じた指導を行い、仲間と互いに協力して学習に取り組むことができるようにする。

### 3 ペア学習



パートナーと考えを交流したり、互いの学習状況を確認したりできる。

教員は、目的に応じた明確な指示を与えるとともに、児童生徒がペアで積極的に活動できるよう、机間指導や個別指導を通して、適切な評価や価値付けを行う。

### 4 個別学習



児童生徒一人ひとりが、補充的又は発展的な学習に取り組むことができる。課題を個人で探究したり、個人のペースで作業を進めたりするのに適している。

教員は、児童生徒一人ひとりの興味・関心が異なり、個人差があることを念頭に置き、それを生かした授業を展開するために、個人の学力状況を把握する必要がある。机間指導を通して、一人ひとりにかかわり、積極的に励ますようにする。



## 12 ICTや教具※の効果的な活用方法

教科書と板書の授業に、ICTや教具を効果的に取り入れることで、児童生徒の意欲が高まり、考え、よくわかる授業を行うことができます。

### ICTや教具の効果

※ 教具とは、授業を効果的、効率的に進めるために教育的に工夫された道具のこと

◆ 児童生徒の実感（驚き・感動）を伴った体験的な活動を授業に取り入れ、興味・関心を喚起し、理解を助けることができる。

- ICTを活用して、日常では見るできない「小さいもの」「遠いところ」「現象」等を「拡大して」「目の前で」「実際に」見せることができる。
- 教具を活用して、本物、標本、模型に触れさせることができる。



◆ 児童生徒の表現力を育成することができる。

- ICTや教具を活用し、児童生徒の発表、レポート作成などを効果的に行うことができる。

### 活用する際のポイント

◆ どのような場面やタイミングで使用するのか。

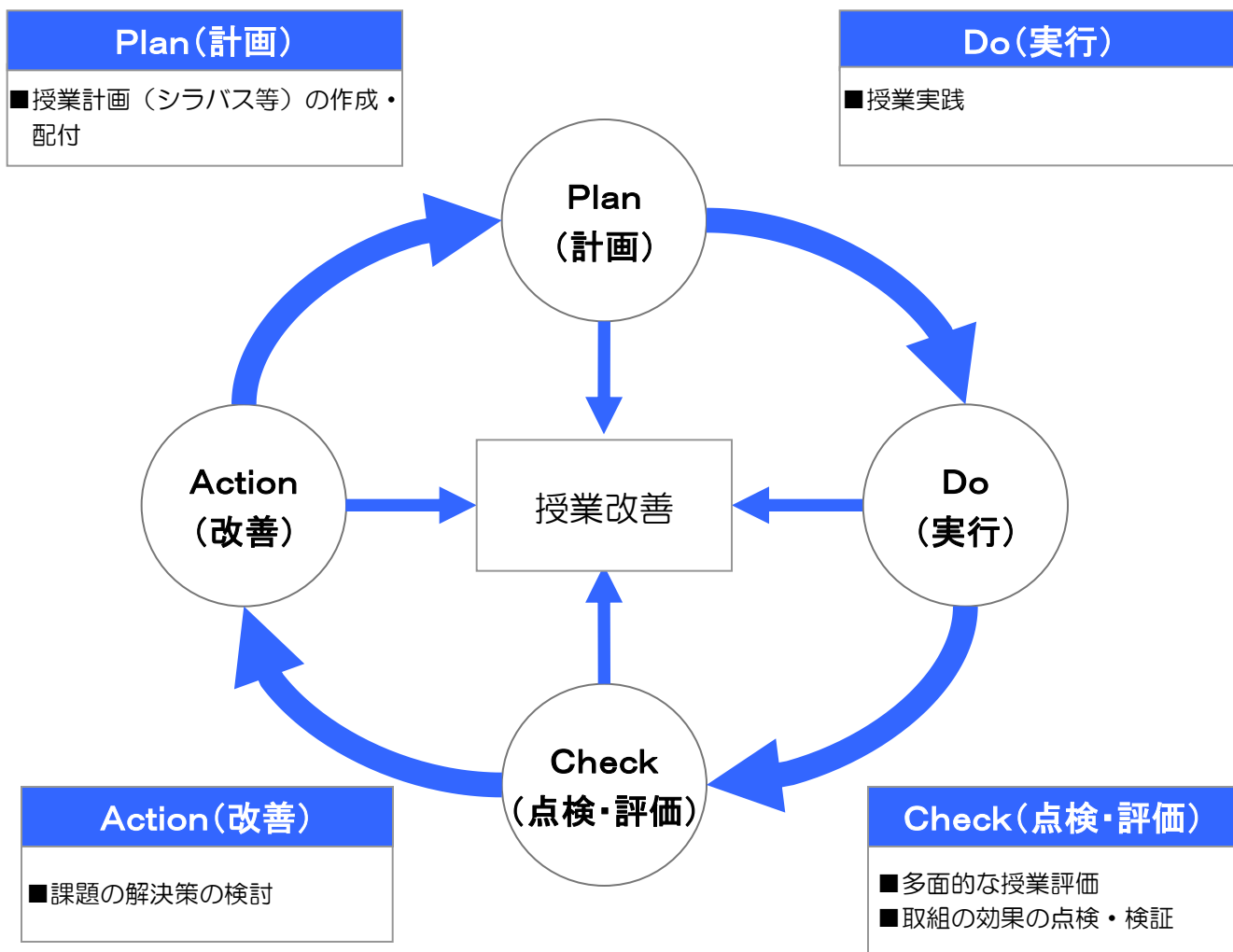
- 指導のねらいに沿って、単元や題材のどの場面で使用するのかを検討する。
- 授業の導入や展開、まとめの場面によって、ICTや教具の使用意図が異なるので、提示する内容とその見せ方も十分検討する。

◆ どのような意図で使用するのか。（どのような効果を期待するのか。）

- ① 児童生徒の興味・関心を高める。
- ② 児童生徒一人ひとりが課題を明確につかむ。
- ③ 児童生徒にわかりやすく説明する。
- ④ 児童生徒の思考や理解を深める。
- ⑤ 児童生徒の知識の定着を図る。
- ⑥ 児童生徒が情報を収集したり選択したりする力を高める。
- ⑦ 児童生徒が調べたことをまとめて発表し、表現力を高める。

# 13 授業改善の効果的な方法

PDCAサイクルに基づき、授業の計画を立て、授業を実践し、様々な授業評価を通して、授業改善を図ることで、授業力の向上につなげることが大切です。



## ● Plan 「授業計画(シラバス等)の作成・配付」

児童生徒が主体的に学習計画を立て、意欲をもって学習に取り組めるよう、各教科等の授業の目標・学習内容・学習方法・評価方法等を児童生徒・保護者に十分説明する。

## ● Do 「授業実践」

日々の授業をきめ細かく見直す。授業のねらいを明らかにするとともに、観点別の評価規準を設定して分析的な評価を行い、指導に生かす。

## ● Check 「多面的な授業評価」「取組の効果の点検・検証」

研究協議をとまなう授業研究、児童生徒による授業評価、自校・他校の教員や保護者等による授業評価などを実施し、授業方法や評価方法のチェックを行う。「やまぐち学習支援プログラム」評価問題等を活用し、課題を明らかにする。

## ● Action 「課題の解決策の検討」

教科会議や校内研修等を開催し、上の「Check」で明らかとなった課題の解決策を検討し、改善に向けての授業計画を立て、日々の授業に生かす。

# 14 授業評価の効果的な方法

授業改善を効果的に進めるには、①「児童生徒による授業評価」、②「授業者自身による授業評価」③「他の教員や保護者等による授業評価」などを組み合わせて取り入れるとよいでしょう。必要に応じて、下の授業評価の観点の項目を参考にしてください。

## 授業分析シート

平成( )年( )月( )日( )曜日 第( )限

学年( )組( ) 教科・科目名( ) 教室等( ) 授業者( )

授業の自己分析	◇ 分析項目ごとに自己分析し、それぞれの評価 「4: そう思う、3: どちらかというと思う、2: あまりそう思わない、1: そう思わない」で、 自己分析欄に数字で記入してください。 ◇ 「この授業では評価できないもの」については、— を記入してください。	自己 分析欄
評価項目		
授業計画の活用	授業計画(シラバスや単元の予定など)に示した目標・評価方法・授業計画に沿って授業を実施している。	
授業準備	学習のねらいを達成できるように、教材の精選や開発を十分に行っている。	
授業展開	授業の開始と終了の時間が守られている。	
	授業の導入で、単元の到達目標を踏まえた本時の目標を児童生徒に説明している。	
	授業で学習意欲を喚起するための工夫が見られ、効果をあげている。	
	児童生徒が思考したり、判断したりする活動を、適宜、授業に取り入れている。	
	児童生徒が、話したり、書いたりする活動を、適宜、授業に取り入れている。	
	学習内容に応じて、グループ学習、ペア学習、個別学習などの学習形態を、適宜、授業に取り入れている。	
	児童生徒は、全員授業に集中している。	
	発問や机間指導、ノート観察等により児童生徒の反応や理解度を見て、修正しながら授業を展開している。	
	授業中に、児童生徒が自己評価する活動を、適宜、取り入れている。	
授業のまとめ	本時の学習内容の確認を行い、児童生徒に自己評価させ、充実感をもたせている。	
	次回までにやっておく宿題や予習・復習など、家庭での学習内容を具体的に指示している。	
授業技術	板書計画を立て、授業の終了時に黒板を見ると、その授業の内容が概観できるよう工夫している。	
	児童生徒の理解が深まるようなプリントを作成して、効果的に活用している。	
	声の大きさ、話す速さ、間の取り方、言葉遣いに十分気を付けている。	

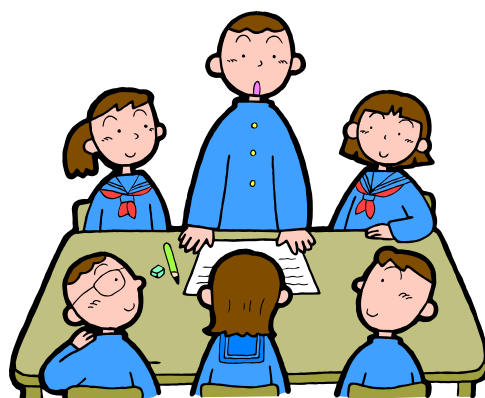
授業を振り返ってみて

授業の反省点と課題及び今後の改善点	
-------------------	--

# 15 新しい学習指導要領における評価の観点

旧学習指導要領の4観点の枠組みを基盤としつつ、学力の3つの要素を踏まえて、次のとおり評価の観点が変更となりました。

学力の3つの要素	旧評価の観点	新しい評価の観点	詳細
基礎的・基本的な知識・技能	「知識・理解」 「技能・表現」	「知識・理解」 「技能」	「技能・表現」で評価していた内容は引き続き「技能」で評価する。すなわち、式やグラフに表すこと（算数や数学）や、観察・実験の過程や結果を的確に記録し整理すること（理科）なども含めている。
知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	「思考・判断」	「思考・判断・表現」	各教科の内容などに即して思考・判断したことと、その内容を表現する活動（記述、発表、討論など）とを一体的に評価するため、「思考・判断・表現」としている。
主体的に学習に取り組む態度	「関心・意欲・態度」	「関心・意欲・態度」	各教科の学習内容に関心を持ち、自らの課題に取り組もうとする意欲や態度を評価する。



## 16 学習評価の基本的な考え方

学習評価に当たっては、教育活動の特質や評価の目的等に応じ、評価の方法、場面、時期などを工夫し、児童生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要です。

### ① 指導と評価の一体化をはかる

学習評価は、児童生徒にとって、自分の学習の成果を見つめ直し、今後の学習を一層充実するための指標となるものです。また教師は、学習評価をその後の指導改善に生かすことが大切です。つまり、指導と評価は別物ではなく、一体化したもののなのです。

### ② 学習評価の妥当性と信頼性を高める

学習評価の妥当性と信頼性を確保するため、指導目標や内容を示した評価規準と、それにふさわしい評価方法を組み合わせて設定しましょう。

### ③ 学校全体として組織的・計画的に取り組む

担当教科、経験年数等に左右されることなく、学校として評価の方針、方法、体制、結果などについて教師間の共通理解を図って、学習評価を進めましょう。

また、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について、事前に説明したり、評価結果の説明を充実するなど、積極的な情報提供も大切です。

### 工夫改善のポイント

#### ■ 分析的な評価、記述的な評価の導入

授業のねらいに沿った、分析的かつ記述的な評価を工夫する。

※分析的な評価…達成状況をいくつかの観点から分析的にとらえる評価法。観点別学習状況の評価がこれに当たる。

※記述的な評価…生徒のよい点や特徴を文章で記述する評価法。「総合的な学習の時間」の評価がこれに当たる。

#### ■ 評価の場面の工夫

学習後（総括的）のみならず、学習前の児童生徒の状況把握（診断的）や学習過程（形成的）における評価を工夫する。

#### ■ 評価の時期の工夫

学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、単位時間ごとなどにおける評価を工夫する。

#### ■ 評価方法の工夫

評価の方法は、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート、実技などを用い、その選択・組合せを工夫する。児童生徒による振り返りの自己評価、児童生徒同士の相互評価なども積極的に取り入れる。